

年同様で、各部門にわたる資料の整備に図書館は一層の配慮をしなければならない。特に本年は最も多岐にわたってわれわれの生活に結びついた「社会科学」部門について、政治、法律、経済等の各権威ある方々に診断してもらい、それらの充実につとめた。

また9月から、一昨年から開始した郷土紙（民報、民友）のマイクロ化されたものについて、その公開を実施したが、これらの資料を利用する者にとって、従来の新聞そのものをめくるより便利であると大変好評をはいしている。そしてそのコピー化もあわせ行なったことにおいて新聞、雑誌の利用が極めて高い数字を示している。

児童図書の昨年比50%増の30,958冊は当然のことではあるが、僅か3,000余冊の図書からすると実に10倍の利用率を示しており、新刊の補充が追いつかなかった実情であった。

→〔表2〕

（3）館外個人貸出登録者

児童生徒の登録が行きわたって、その人数は大きな飛躍を見せた。昨年600余人であったものが、児童934人、中学417人とそれぞれ3倍、2倍となり、全体の29.2%を占め、これに高校生の21.2%、大学生の25.2%を加えると実に81.8%が勉学を目的とする人達となり、まだ一般人の図書館利用は程遠い感じがする。これらの人達を如何に図書館に引き入れるかについては、よほど思いきった方法を打ち出さなければならぬものと考えられる。→〔表3〕

2. 調査相談事務

（1）回答事務

郷土に関するものが年を追ってその度合いを大きくしてきているが、これらは県内に生まれ、あるいは育った人達が成長し、そして生まれ故郷に関心を示すものが大半であり、内容もむつかしくなり（極めて特色的になり）、館内に所蔵されるものだけでは処理しきれず、それぞれの地方の関係機関や研究家に再依頼するものも多くなっている。

特に資料面においては福島大学図書館に依頼して協力をあおいでいるものが目立っている。→〔表4〕

（2）特許関係サービス

他県の図書館においてはたいへんその利用がふえてきているということであるが、本県においては他の資料に比しては低いようである。これはひと頃の発明ブームが去ったのか、また特許に対する関心がそこまで行っていないのか、あるいは、図書館が資料公開などを通じてPRすべき面が不足しているのか、今後原因をつきつめ利用を高める方策を検討すべきであろう。

本県の人達が出願した特許および実用新案出願公告は年度ごとに一覧表を作成しているため、将来参考になることが予想される。→〔表5〕

（3）複写サービス

この複写サービスは、当館の中でも利用度が高くなってきている。今年は特に新しい機械の導入によって、利用者にとって待ってもらわなく提供できることがその理由であろう。処理件数は昨年376が605、枚数は7,207が14,451となり、まず増加の一途をたどるであろうから、それに対処する新しい機械、処理方法等をもっと手軽に扱えるよう検討する

必要があると考えられる。→〔表6〕

（4）特別貸出

ほぼ昨年同様の処理であるが、県史関係が落ち着いたので、官公庁、報道機関、会社、事業所等が主な利用先となっている。ただコピーできるものは、コピーですます方向にもって行くべきものとする。→〔表7〕

（5）補助資料（ツール）の作成

① 郷土関係新聞記事索引、② クリップ等も続けて実施するが、さらに県内における文学者文献目録、県人著作目録といったことも当然本館がなすべきものとして考慮している。これらのためにも、県内における出版物の所在を知ることが先決であるので、これら所在については、つとめて御連絡をいただくなり、現品を寄贈してもらうような方法を関係機関に特にお願いたします。

（6）相互協力

図書館間における資料の貸借はまださしたる件数には至っていないが、貸借される資料はその図書館にだけ所蔵される貴重なものも古いのものということになる。当然郵便にて貸借されるが、その費用も相当なものであり、コピーの普及した今後においては、必要な箇所をコピーにて送付するという方法にもって行くべきではないかと思われる。

3. 過去5カ年間の利用状況の推移

利用人員、利用冊数とも同じ傾向を示している、すなわち単に館に出入りする者の数は減っているが、図書の利用はふえているということである。このことは多少とも図書館とは図書を利用するところであるということが市民にも理解されて来たことと、図書館側としてはその努力を自認するものであるが、さらに“開かれた図書館”というモットーのもとに、従来の観念をあらため、積極策をとる時期に来ているとも思われる。今年はこのことについて館員全員の創意を寄せ合って研究討議をつくしたので、明年度はぜひ“開かれた図書館”に向かって運営を進めたい。→〔表8〕

〔表1〕 利用者数（昭和46.4～47.3）

職業別	人員		資料を利用した者		計	構成比
	館内	館外	資料を利用した者	資料を利用しない者		
1. 勤め人	1,546	3,352	2,336	7,234	7.2	
2. 自家営業	261	412	418	1,091	1.2	
3. 主婦	128	1,065	106	1,299	1.5	
4. 無職その他	1,126	2,693	6,421	10,240	10.9	
5. 学生・生徒	3,715	14,048	42,432	60,195	64.4	
6. 児童	5,415	8,031	258	13,705	14.8	
計	12,191	29,601	51,972	93,764	100.	
{男女別} (男)	7,216	15,093	29,218	51,527		
{内訳} (女)	4,975	14,508	22,754	42,237		
1 勤め人男	1,389	2,375	1,866	5,630		
(女)	157	977	470	1,604		
2. 自家営業男	242	326	388	956		
(女)	19	86	30	135		
3. 主婦女	128	1,065	106	1,299		
4. 無職その他男	919	1,747	4,525	7,191		
(女)	207	946	1,896	3,049		
5. 学生・生徒男	1,781	6,416	22,284	30,481		
(女)	1,934	7,632	20,148	29,714		
6 児童男	2,885	4,229	155	7,269		
(女)	2,530	3,802	104	6,436		